

わかりやすく伝えるポイントをつかむ 発言力UP研修

REPORT 3

さわやか女性会議などが主催する「発言力UP研修」が2月4日、広島県庄原庁舎で開催され、会員と一般の方合わせて約70人が参加しました。

この研修は、自己自立能力などを高めるねらいで開催されたものです。

当日は、講師のメイジュコミュニケーション代表赤木悠起さんが、どうすれば相手に伝えたいことをうまく伝えられるかを、話すときの心構えやポイントを挙げて説明。参加者は6人グループに分かれて話し方や表現の仕方などをワークショップ形式で研修し、実際にプレゼン

テーションにも挑戦しました。

参加者からは「明日からすぐに活用できる研修だった。今後の活動に生かしていきたい」と好評でした。



▲「うまく伝えるには技術と心構えがポイント」と赤木さん

日頃の防災意識で文化財保護を 文化財防火デー

REPORT 4



▲初期消火訓練を行う参加者（口和町多加加美神社）

した市内各地で防火訓練が実施されました。

訓練では消防署や地元消防団のほか地域住民も参加。住民が消火器やバケツリレーなどで初期消火にあ

1月26日の「文化財防火デー」にあわせ、1月19日から29日の間、多加加美神社（口和町向泉）や竹森八幡神社（東城町竹森）などの指定文化財をはじめと

たった後、消防署と消防団が到着して放水を行いました。参加者は「貴重な文化財を災害から守るためには、周辺住民と消防・文化財関係機関の連携が重要。こうした訓練を通じて日頃から文化財の防災に対する意識を持っておきたい」と話していました。

文化財防火デーは、昭和24年1月26日に国内最古の木造建造物である法隆寺の金堂で火災が発生し、堂内の壁画が焼損したことが基になり定められています。1～2月は1年の中で最も火災の発生しやすい時期ということもあり、この文化財防火デーを中心に、貴重な文化財を災害から守るための取り組みが全国各地で毎年行われています。

「地域医療を守れるか」に高い関心 西城で新春地域医療講演会

REPORT 5



▲講演する河野教授

的医師不足などに焦点を当てながら、現在の医療制度や地域医療のあり方について解説。会場に訪れた約200人は熱心に耳を傾けていました。

西城市民病院の支援団体、地域医療と健康生活を守る会が主催する「新春地域医療講演会」が1月19日、ウイル西城で開催されました。

広島大学学長特命補佐の河野修興教授が「地域医療を守れるか」をテーマに、医療現場の最新の情報を交えつつ、慢性

参加者は「安心して健康な生活を送るため、地域医療を継続・充実していくことへの強い関心を持っている」「地域医療にスポットを当てた講演というのはとても貴重な機会になった」と話していました。



▲多くの人が来場

元スキー場で雪遊びを満喫 口和でスノーフェスタが開催

REPORT 1

「スノーフェスタ in 口和」が1月27日、金尾原元スキー場で開催され、市内外から約120人が参加しました。

宮内自治会が中心となり、口和町観光交流協会などが参画してつくるこのイベントは、雪をとことん楽しんでもらおうと、かまくら作りやそりすべりジャンプ大会など、雪を楽しむ企画が満載です。

そりすべりジャンプ大会に参加した子どもたちは、ここぞばかりにそりに乗り込み勢いよくジャンプ。飛び過ぎて転んだり、コースを外れたりして雪まみれになりながらも、元気いっぱい楽しんでいました。



▲そりジャンプを楽しむ子どもたち

昼食には猪肉入りのうどんやおでん、おやつタイムにはぜんざいがふるまわれるなど、参加者は丸一日楽しい時間を過ごしました。

西村公夫実行委員長は「今回は参加者の半数が市外の方だった。年々市外からの参加者が増えているので、今後も続けていきたい」と話していました。



▲かまくらで食べるぜんざいは最高！

これまでの活動が認められ評価 子ども神楽塾と比和中学校が県教育奨励賞

REPORT 2

比婆荒神神楽子ども神楽塾と比和中学校が平成24年度広島県教育奨励賞を受賞し、2月8日、広島県庁で表彰式が行われました。

東城地域で活動する子ども神楽塾は、本年度、第14回全国こども民俗芸能大会に中国四国地区代表として出演を果たしたほか、数多くの大会や行事に出演し演目を披露するなど、民俗芸能の保存と継承に貢献しています。

比和中学校は平成21年度から3年間、広島県中学校学力向上対策事業、庄原市研究推進支援事業の指定を受け、比和小学校との

連携教育に力を入れてきました。小・中学校の9年間を見通した学びのモデルを作成し、これに取り組んだことで学力が向上。また、比和小と合同で「ことばの教育」にも取り組み多くの賞を受賞しています。それらの実績が認められての表彰となりました。



▲表彰を受ける比和中学校の新谷継志校長（左）



▲表彰を受ける子ども神楽塾の横山邦和塾長（左）

地域の方に感謝を伝える 比和小学校児童が「ありがとう会」

REPORT 8

地域住民の皆さんに児童が感謝の気持ちを伝える「ありがとう会」が2月12日、比和小学校で開催されました。当日は、比和小学校の児童が、日頃お世話になっている地域住民など約30人を招待し、授業風景を見学してもらった後、6年生10人が抹茶と茶菓を振舞いました。「いつもありがとうございます」という感謝の手紙とともに、おもてなしを受けた招待客は「すてきなお茶会に招待

してもらってうれしい。いつも小学校のみんなの笑顔に元気をもらっています」と満足した様子で、児童との交流を楽しんでいました。

感謝の手紙を渡す児童▶



伝統の舞で福を呼び込む 三楽荘で新春神楽

REPORT 9



▲福を授ける大黒舞

新年の門出を祝う「新春神楽」が1月27日、庄原市三楽荘で行われました。地域の方をはじめ

県外からの神楽ファンなど約110人が、国重要無形民俗文化財の比婆荒神神楽を楽しみました。

今年は、猿田彦の舞などの「七座神事」と、岩戸から天照大神が現れ世の中に光を取り戻したという神話を基

にした「岩戸開き」などが披露されました。暗闇の中を手探りで登場してくる手力男尊を身を乗り出して見る子どもたち、神楽独特の会場との言葉の掛け合いに笑いもあり、地元の方々から甘酒も振舞われ、来場者は心も体も温まる時間を過ごしました。



▲暗闇の中を登場する手力男尊

豆まきで心の中の鬼退治 総領保育所で『春を呼ぶ会』

REPORT 10

総領保育所の園児たちが地域の方を招いて豆まきをす「春を呼ぶ会」が2月1日、総領保育所で行われました。

始めに吉原弘美所長が「豆をまいて自分の心の中の鬼を退治しましょう」とあいさつ。子どもたちによるピアノの演奏と先生による芝居が披露された後、いきなり赤鬼と青鬼が登場。突然の鬼に泣き叫ぶ子もいましたが、子どもたちは事前に用意していた豆に似せたボールを鬼に向かってみんなで投げつけました。その姿に観念し鬼はそそくさと逃げていきました。

先生が「心の鬼は出て行ったかな?」と聞くと、子どもたちは元気よく「出て行った!」と答えていました。会の最後はみんなでダンスをして、春を運んできた「お福さん」からもらったお菓子を食べました。

参加した地域の方は「子どもの元気な姿を見られてよかった」と話し、終始笑顔で楽しそうに子どもたちの姿を追いかけていました。



▲元気に豆をまく園児たち

上手い者・美味しい物が頂上かけ熱戦 第16回広島県雪合戦大会 第3回鍋&漬物グランプリ

REPORT 6



▲シェルター越しの熱戦

「第16回広島県雪合戦大会」が2月2日・3日の両日、高野スポーツ広場で開催され、県内外から88チーム、選手・観客合わせて約3,000人が来場しました。

今年は例年に比べ積雪量が少ない上に、前日には雨が降るといふ最悪のコートコンディションでしたが、例年以上の熱戦が繰り広げられました。

選手たちは足を取られながらも雪球を投げ、かわし、水しぶきを上げながら相手チームのフラッグを奪い合いました。中でもシェルター越しに繰り広げられる攻防は見ごたえ十分で、観客や応援団から大きな声援が飛んでいました。

2月3日には同じ会場内で「第3回鍋&漬物グランプリ」が開催され、約1,200人が来場。雪合戦大会に負けない盛り上がりを見せました。

鍋グランプリには市内外から11団体が出店。高野町

の郷土料理「緋牡丹ぬっぺ鍋」や、中国の留学生たちが作る「本場重慶の火鍋」、市内のママ友仲間が作る「韓国風「美肌」鍋」など特色のある鍋料理が並びました。

また漬物グランプリには、高野町の漬物名人による自慢の漬物21品が出品され、開始時刻の午前10時前にはすでに長蛇の列ができ、先着200人の引換券はあっという間に完売しました。

審査の結果、鍋グランプリは、塩麴と酒粕ベースでしよう風味に仕立てたスープに地元の野菜をたっぷり入れた「奥出雲鍋Z」を出品した前大会の覇者「やらこい奥出雲」(奥出雲町)が、2年連続でグランプリを獲得。漬物グランプリでは、出口富子さんが出品した「ハリハリ漬け」が頂点に輝きました。

グランプリを主催した高野地域づくり未来塾の瀬尾二六塾長は「回を重ねるごとに、出品される鍋と漬物のレベルが向上している。グランプリを継続し、高野町の一大イベントに育てたい」と意気込んでいました。



▲賑わう鍋&漬物グランプリ会場

備北の温泉にいらっしゃ〜い 三海二山グランマルシェ備北温泉まつり

REPORT 7

海の幸、山の幸、温泉を楽しむイベント『三海二山グランマルシェ備北温泉まつり』が2月16、17日の両日、庄原さくら温泉かんぼの郷庄原で開催されました。

中国横断自動車道尾道松江線の開通でつながる山陰から四国までの「うまいもの」が、まるごと堪能できる「食と物産市」を始め、三次・庄原の神楽や太鼓、踊りなどのステージイベントなどが行われ、2日間あわせて約2,500人の来場者でにぎわいました。

また、この温泉まつりの開催とあわせて2月1日~28日の期間、備北地域にある10の温泉を巡る「ゆけむりスタンプラリー」も実施されました。



▲ステージイベントを楽しむ多くの人